



# あふれかえる都市

2016年 世界のトイレの状況

## はじめに

人の生活は今や都市型であると言えます。人類史上初めて、世界の人口の半分以上(54%または39億人)が町や都市、大都会に住んでおり、2050年までには3分の2まで膨れ上がるだろうと予想されています<sup>2</sup>。

多くの新しい都市生活者、特に貧困層は、きらびやかなマンションや工業地帯跡の再開発エリアには住めません。そうした人々は、人で溢れかえり急速に拡大するスラムに行き着く—もしくはそこで生まれます。

経済成長は都市化によって加速し、すべての産業化した国の人口の大半は都市に住んでいます。これは途上国において、都市の人口増加が予測されるということでもあります<sup>3</sup>。

国際連合人間居住計画(ハビタット)によれば、途上国の都市人口の3分の1—8億6,300万人以上—はスラムに住んでいると推定されています<sup>4</sup>。多くの場合、都市計画とインフラ建設が追いついていないのです。

## 行き場のない人々

こうした人々は大抵、安全でプライベートが確保されたトイレもきれいな水源も利用することができません。すでに作られたスラムに衛生的設備を持ち込もうとするのは、政治だけでなくロジスティックスの面でも間違いなく困難です。世界的にみても、都市居住者のおよそ5分の1である7億人以上<sup>5</sup>が、適切なトイレを利用できない環境で生活しています。

これらを考え合わせると、世界中の町や都市でトイレを待つ人の列は地球29周分の長さに伸びるでしょう。

政府が市民の最も基本的なニーズを無視すると、トイレの便槽を空にしたりごみを処理したりといったサービスがよい加減になり、労働者や近隣住民が衛生への関心を持たなくなった、という環境において、人々は生活せざるをえなくなります。人の排泄物を処理するシステムを利用できなければ、約1億人の都市居住者にとって野外排泄以外の選択肢はほぼありません<sup>6</sup>。残りの6億人は、汚くて常に混み合っている公共のトイレ、原始的な穴やトイレ代わりにのバケツを含む、最低限の衛生や安全、プライバシーすら満たされていないトイレに頼っています。

## 縮小する世界で拡大する脅威

こうした衛生設備の欠如は、スラムに住む人々にとっての屈辱と健康上のリスクという問題に留まらず、世界中の都市の健康と安全を脅かします。

コレラやエボラといった多くの病気は、それらを防ぐための衛生設備や正しい衛生習慣がなければ、より早く広範囲に広がります。相互につながり合う今日の世界では、南アジアやサブサハラ・アフリカの都市のスラムで発見された病気の多くが、すぐに先進国でも重要な課題になるのです。

「2030年までにすべての人がすべての場所で基本的なトイレを利用できるようにする」というターゲットを含む目標6が設定された「持続可能な開発目標(SDGs)」が、昨年国連に加盟するすべての国によって採択されました。

今年のレポート「世界のトイレの状況」では、世界で最も衛生状態の悪い都市のトイレ、そしてそれらの変革に真正面から取り組むために生まれたいくつかの仕事をご紹介します。残り14年でこの目標を達成するためには、少しも時間を無駄にはできません。



ガーナの首都アクラにあるニマ・スラムでは、新しいコンクリートの排水路が設置され、都市の別の場所からコミュニティの真ん中を通して排水が流れていきます。しかし、スラムで出る排水のための設備は作られていません。アブドゥルさんの家は浸食によって深刻な被害を受けました。倒壊した部屋に立っているのがアブドゥルさんです。

WaterAid/Geoff Bartlett

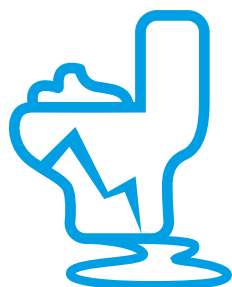
# 都市部における 衛生設備の不備による影響

スラムは特に劣悪な衛生状態にあります—きちんとつくられていない、もしくは機能していないトイレや、蓋のない下水溝に流し込むトイレ、そして不適切な排泄物処理設備。他に選択肢がないために、何百万もの人々は、道端や線路、「飛ぶトイレ」と呼ばれるビニール袋を利用して野外で排泄しています。

## 危険な状態

7億人

が基本的なトイレを利用できないまま都市で生活しています。

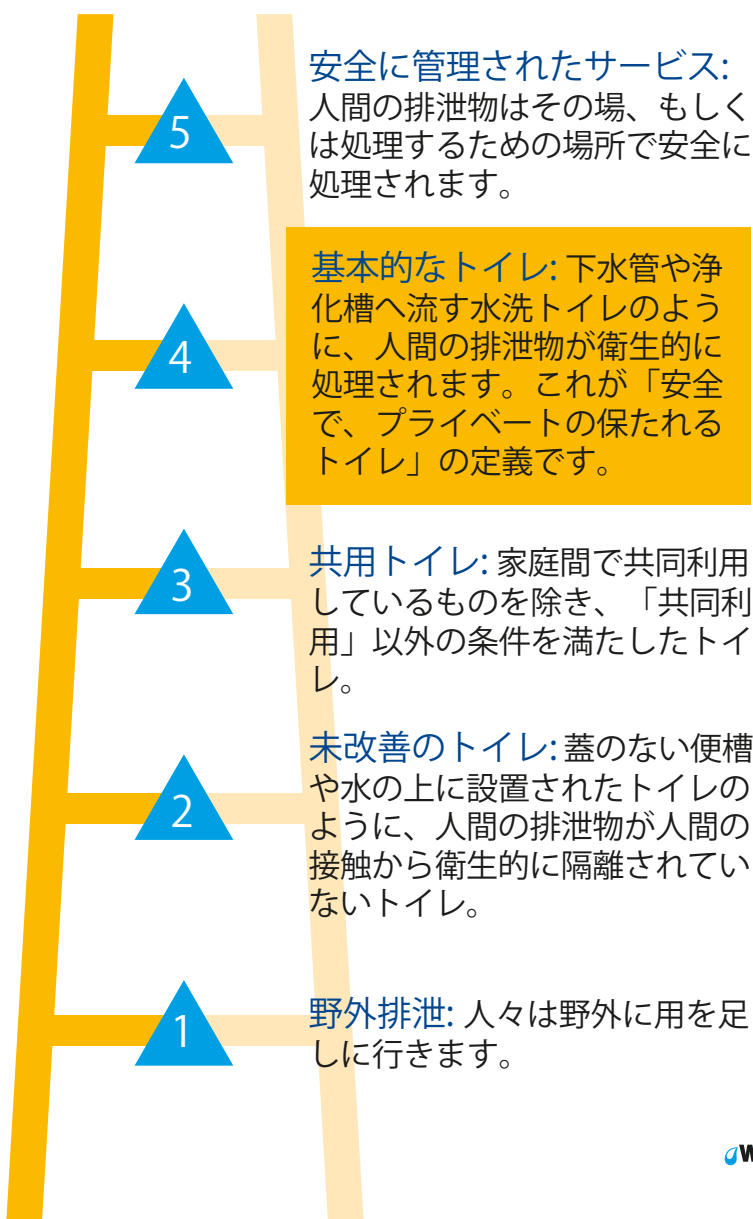


そのうち、1億人が野外で排泄しています？



## 衛生設備のはしご

すべての人がすべての場所で、衛生的に排泄物が隔離され、尊厳とプライバシーの保たれた基本的なトイレを利用する権利があります。しかし7億人の都市居住者が、最低限のニーズも満たされず、「衛生設備のはしご」の底辺付近にいます。



# 都市居住者が安全でプライベートの保たれた トイレを利用できない5つの大きな理由

## 1. 行き届かない範囲

高所得者が住むエリアでは、普段から適切かつ計画的に配備された公共の下水道システムを利用できる一方、貧困層の住むエリアはしばしば改善されないまま放置されています。トイレへのアクセスが困難である、トイレの建て付け・構造が悪いために、排泄物を適切に処理することが難しく、結果として、人々は排泄物を自分たちで捨てたり埋めたりして済ませます。それは、環境汚染にもつながります。



## 2. 政治

政治家は道路や学校、その他目に見えるインフラを好む傾向にあり、大抵が地下で発生する、衛生設備のような課題は無視しがちです。文化規範や、多くの場合は状況を変えられるはずがないと考えているために、貧しい人々は安全でプライベートの保たれるトイレへの要望を口にしません。また、衛生設備の不備は女性や女の子たちに大きな影響を及ぼしますが、コミュニティや家庭、都市計画の優先事項を話し合う際に、それらが話題に上ることはありません。

## 3. 土地の保有権

スラムが一体誰の土地で、誰に責任があるのかということは、衛生設備を含む公共事業を提供する際に大きな障害となります。そこにある家が公有地に建っているのか民間所有地に建っているのかに関わらず、スラムの住民は多くの場合は違法居住者、もしくは一時的な居住者とみなされます。投資や改善を行う対象としては、インセンティブが少なく、責任の所在も明確ではありません。スラムの住民は社会的にも政治的にも除外されており、基本的なニーズも無視されています。

## 4. 不適切なシステム

トイレがあったとしても、インフラや制度が整っていないために適切に維持されない場合もあります。予算不足や管理者への指導不足がずさんな運営や維持管理につながり、設備はすぐに荒廃してしまいます。排泄物の管理にもまとまった投資と輸送と処理に関する計画が必要です。政府は多くの場合、トイレの問題は家庭の責任とみなすため、大規模な改善計画はなかなか実現しません。

## 5. 技術の課題

貧困層のコミュニティは、川のそばや海岸沿いなどの低地に位置していることが多く、排水や洪水は身近な問題です。スラムのような密集した場所では、道が狭くピット式トイレの排泄物をくみ取るトラックが入れないことがあります。人口増加により、既存の脆弱なサービスはすでに立ち行かなくなっているのです。

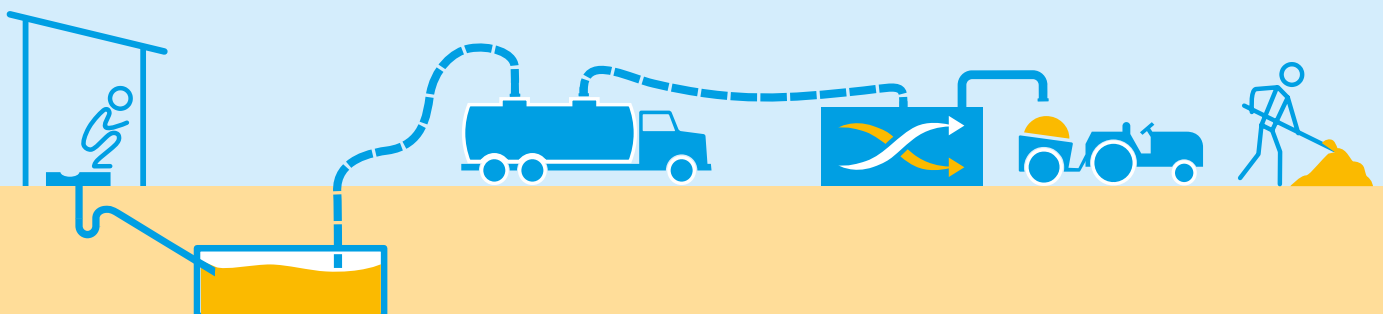


## 適切なトイレが利用できないことで引き起こされる6つのリスク

- 1. 大人も子供も病気にかかります。**  
不衛生な水やトイレ、衛生教育が行き届いていないことによって、毎年315,000人の子供たちが下痢で命を落としています。また下痢は、子供たちの身体や精神の発達に妨げる栄養不足の50%<sup>10</sup>に関連しています。
- 2. 女性、少女たちを危険に晒します。**  
家にトイレがないために、女性や女の子たちは暗くなるのを待ってから、用を足すための静かな場所を探します。そのため襲われたり、レイプされたりするおそれがあります。
- 3. 月経に対応することが困難です。**  
家庭や学校に適切なトイレがなければ、安全に、尊厳を持って月経に対応することは不可能です。月経が始まる年齢になると退学する女の子が多くいます。
- 4. よい医療が行き届かなくなります。**  
コミュニティの衛生状況が適切でないということは、同様に医療施設にも適切な衛生設備がないということです。患者や医療従事者は、本来予防可能な感染症によって命を脅かされる危険があります。
- 5. 貧困から抜け出すことができません。**  
不衛生な環境によってコミュニティの人々が頻繁に病気にかかっている場合、生産性のある仕事をしたり、子供たちが学校に通い続けたりすることは困難です。適切な衛生環境なしで近代化と繁栄を成し遂げた都市や国はありません。
- 6. 経済に悪影響を及ぼします。**  
衛生設備の不備、清潔でない水や衛生教育が行き届いていないことによる病気が原因で、保健医療費の支出、ならびに生産力の低下が生じ、結果として多くの国は、GDPの最大5%<sup>11</sup>を失うこととなります。この数字は、2008年の経済危機のピーク時に起きた途上国経済の下落<sup>12</sup>よりも大きいのです。

## 排泄物はどこへ？

トイレは、排泄物を適切に処理する「衛生の連鎖」のプロセスの始まりにすぎません。清潔なコミュニティや住民の健康を保つためには、この連鎖のつなぎ目を有効にする必要があります。



### 収集:

人間が排泄物に触れないようにするための安全で効果的なトイレ。

### 保管:

人間が排泄物に触れないようにするための密閉されたタンクまたは槽。

### 移送:

トイレの排泄物を空にするしくみ、もしくは下水管。

### 処理:

排泄物をろ過、処理する設備。

### 廃棄、再利用:

廃棄物を安全に廃棄、もしくは肥料等として利用する方法。

## 無差別に広がるエボラ、コレラ

人口密度が高い都市部において、人は周囲の人々からの汚染に無防備です。もし野外排泄があちこちで行われていたり、スラムに新しくピット式トイレを設置できる場所が少なく、いくつかの便槽が排泄物であふれていたり、あるいは排泄物をくみ取るトラックが来なかったりすれば、人々の住環境は排泄物で汚染され、スラムから広がった汚染は、地位や収入に関係なく無差別に全ての人間の健康を脅かします。また地下水位の高い川岸や沿岸都市の地下水は、便槽から漏れた、あるいは排水システムにたれ流された未処理の下水で汚染されます。

**エボラ** – 病人の血液、尿、排泄物を介して広がります。これは、衛生設備の不備が国際的な保健危機の重要な一因であることを示しています。エボラはギニア奥地の農村で発生し、国境を越えて大きな町や都市に急速に広がりました。数か月のうちに11,000人以上が亡くなっています。

**コレラ** – 治療をしないで放置しておく数時間で命を落とすこともある急性の下痢で、衛生設備の不備が引き起こす甚大な影響の一例でもあります。コレラやその他水が媒介する病気の予防するためには、安全な水と衛生の供給は重要です。

手洗い場とトイレが一体となった設備で体を洗って、帰宅するロゼリン・クウェジさん。排水はそのまま水に流されます。（リベリアの首都モンロビア、ファンティタウン、ウェストポイント・スラム）

WaterAid/Ahmed Jallanzo

# 都市衛生の状況が最も悪い国

## 1. 都市居住者の大半が安全でプライベートの保たれたトイレを利用できない国——トップ10 (割合別)<sup>13</sup>

南スーダンは、安全なトイレを利用できない都市居住者の比率が最も高い国です。長年続いている騒乱によって現在でも町や都市のインフラが整っていないため、機能しているトイレを心底必要としている都市居住者の83%が取り残されています<sup>14</sup>

ガーナは意外に順位が低く、4位でした。開発において、大きな前進を見せているにもかかわらず、西アフリカで比較的安定し成長の兆しが見えているこの国は、都市居住者の80%は衛生設備が利用できない状態<sup>15</sup>、つまりほぼ100万人が野外での排泄を強いられているのです<sup>16</sup>





## ガーナ

人間開発指数188か国のうち第 **140**位<sup>18</sup>

アフリカ諸国の中ではGDPが高い国の1つであるガーナですが、町や都市の住民の45%近くの人々が野外排泄を習慣としています<sup>17</sup>。

11,639,000

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

79.8%



984,000

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



2,100+

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



19%

5歳以下の低身長の子供の割合



ガーナは豊かな天然資源に恵まれているにもかかわらず、人口の4分の1は貧困ライン以下の生活を送っています。都市部の大半の人々は、基本的なサービスを利用できません。ガーナでは、都市衛生サービス、特にコミュニティにおけるトイレの改善において、一定に改善が見られているものの、まだまだ長い道のりが残っています。2000年以降、160万人以上の住民が衛生設備を利用できるようになりましたが、利用できない都市居住者の数は460万人以上も増加しています<sup>19</sup>。その結果、コレラの流行が頻発し、アクラでは2014年だけで6000件以上の発症がありました。

## ガーナの事例

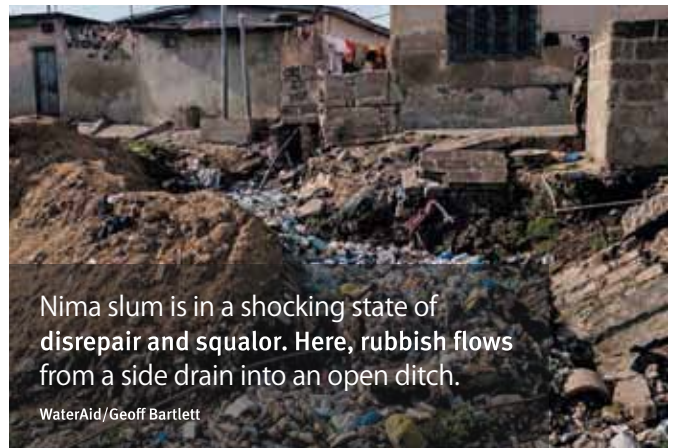
アブドゥーラ・サイドさんは、アクラで最も貧しい地域のひとつ、ニマ地区にある公衆トイレの管理人です。このトイレにはタイル張りの床と陶器の便器があり、きちんと整備されています。

アブドゥーラさんの仕事は、住民に野外排泄や、建物が荒廃し不衛生なトイレを利用する等の危険な習慣をやめてこのトイレを利用してもらうために、維持管理や掃除をすることです。

アブドゥーラさんは話します。  
「このトイレに誇りを持っていますし、コミュニティで私の仕事は評価されています。近々、低コストの調理用ガスを生産するため、排泄物タンクにバイオガスコンバーターを設置する予定です。」



WaterAid/Geoff Bartlett



Nima slum is in a shocking state of disrepair and squalor. Here, rubbish flows from a side drain into an open ditch.

WaterAid/Geoff Bartlett

## 2. 都市居住者の大半が安全でプライベートの保たれたトイレを利用できない国——トップ10（数字別）<sup>20</sup>

インドは衛生設備を利用できない都市居住者の数が最も多い国にランキングされています。2位の中国も差はほとんどありません。このリストに入っているほとんどの国のように、両国とも巨大な人口を抱え、地方から都市部に移住する住民の数が急激に増えています。日々、町や都市に移動してくる人々の数—生まれる数も—が膨大なため、経済発展や都市計画が追いついていません。



順位	国	数字
1	インド	157,191,476
2	中国	104,166,548
3	ナイジェリア	58,920,884
4	インドネシア	38,044,712
5	ロシア	24,231,920
6	バングラデシュ	23,272,773
7	コンゴ民主共和国	21,632,993
8	ブラジル	20,945,314
9	エチオピア	14,023,089
10	パキスタン	12,321,093

## インド

人間開発指数188か国 のうち第 **130** 位<sup>22</sup>

世界第3位の経済大国であるインドは、安全でプライベートが保たれたトイレを利用できず、野外排泄を習慣とする都市居住者数が世界で1番多い国です。<sup>21</sup>

157,191,000

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

37.4%



41,039,000

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



68,000+

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



39%

5歳以下の低身長の子供の割合



インドは今世紀、地方から都市への移住人数が最も多い国になると予測されています。<sup>23</sup> モディ首相が主導する「スワッチ・バーラト（クリーン・インディア）<sup>24</sup>」キャンペーンでは、インドの健康や豊かさは、町や都市が持続可能かつ公正に成長することでうまれると認識されています。<sup>25</sup>

現在インドでは、西ヨーロッパの全人口とほぼ同じ3億8,100万人が、急速に拡大している都市部に住んでいます。<sup>26</sup> そのうち1億5,700万人が適切なトイレを利用できません。政府が衛生設備の設置を優先しているにもかかわらず、都市が猛烈なスピードで拡大しているために、2000年以降、衛生設備を利用できない都市居住者の数は2,600万人増えました。<sup>27</sup>

## インドの事例



WaterAid/Poulomi Basu

ビハール州パトナのスラムに住むウマ・デヴィさんは、50年以上マニュアル・スカベンジャー（手で排泄物を回収する清掃人）として働いてきました。マニュアル・スカベンジャーは違法とされていますが、現在もその習慣は残っています。11歳で結婚したウマさんは、夫の家族からこの仕事に就くことを強いられました。多くのインド人の生活水準が向上しているにもかかわらず、現在でもウマさんや彼女のような職業の人たちは、卑しく恥ずかしい存在として扱われています。

「私の1日は、呼ばれた家に出向いて仕事をすることから始まります。バケツとボウルで排泄物をすくい、排泄物を集めたバケツを頭にのせてごみ捨て場まで持って行きます。においが耐えられないので、できるだけすばやく行きます。途中で倒れたり吐いたりすることもあります。かなり汚い仕事です。毎回排泄物をかぶっていましたが、そのうち飛び散らさず集められるようになりました。衛生関連の仕事に就きたかったのですが、もう歳をとってしまいました。」

### 3. 野外排泄を習慣とする都市居住者が最も多い国——トップ10（割合別）<sup>28</sup>

南スーダン、衛生設備を利用できない都市居住者の割合だけでなく、野外排泄を習慣とする人の割合も約50%と世界で最も高い国としてランキングされました。近年のエボラ出血熱流行の中心地だった3国のうちのひとつである西アフリカのリベリアは、

4位にランキングされました。長年の内戦がインフラを崩壊し、人々はトラウマと貧困のなかに取り残されました。さらに、こうした恐ろしいウィルスのまん延によって、近年の経済成長と発展が急に停滞したのです。



## リベリア

人間開発指数188か国のうち第177位<sup>30</sup>

リベリアの人口の半数が町や都市に住んでおり、その3分の1近くが野外排泄を習慣としています。<sup>29</sup>

1,620,000

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

72%



612,000

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



500+

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



32%

5歳以下の低身長の子供の割合



リベリアの困難な歴史には、内戦、汚職のまん延、失業や脆弱な公共事業があります。リベリアの人口はわずか450万人と少ないのですが、都市部では4人に1人が野外排泄を習慣としています。

首都のモンロビアでは、いまだ多くの地域で電気と水道が不足しています。1940年代にできたウエスト・ポイント・スラムの住民7万5,000人は、わずか4平方キロメートルの浸水地域に住み、機能しているトイレは4つしかありません<sup>31</sup>。2014年夏のエボラ出血熱流行の最盛期には、数百万人が亡くなりました<sup>32</sup>。

## リベリアの事例

チェアコ・パーさんは、モンロビアのウエスト・ポイント・スラムにあるいくつかのトイレのうち1つを管理しています。今このトイレを利用している人々の多くが、以前は海辺に用を足しに行くか、または村に点在している排泄物があふれたその場しのぎのトイレを利用していました。

チェアコさんは2008年から世話人を務めており、よいサービスを提供できていることに誇りを持っていると話してくれました。「もし私の好きなようにできるのであれば、人々に（きれいなトイレと正しい衛生習慣への）関心を高めてもらい、ここまで水を運ぶ負担を減らすために水道システムを導入したいです。」



WaterAid/Ahmed Jallanzo

## 4. 野外排泄を習慣とする都市居住者が最も多い国——ワースト10<sup>33</sup>

都市部における衛生の危機的状況の規模が莫大であることを考えると、やはりインドがワースト1といえます。衛生設備を利用できず、野外排泄を行っている都市居住者の数が世界で最も多く、その数は4,100万人にのぼります<sup>34</sup>。こうした人々の排泄物は、1日でオリンピックの

プール8個分にもなります。第3位のナイジェリアでは、1,300万人以上が排泄場所を自分でみつけて用を足すよう強いられています<sup>35</sup>。都市人口の規模、人口密度や貧困によって、スラムに衛生サービスを届ける政策の失敗と結びついた結果です。



## ナイジェリア

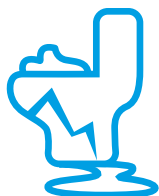
人間開発指数188か国のうち第 **152** 位<sup>37</sup>

ナイジェリアでは2000年以降、都市居住者1人に衛生設備を届けるたびに、利用できない人が2人増える状態が続いています<sup>36</sup>

58,920,000

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

67.2%



13,588,000

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



44,000+

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



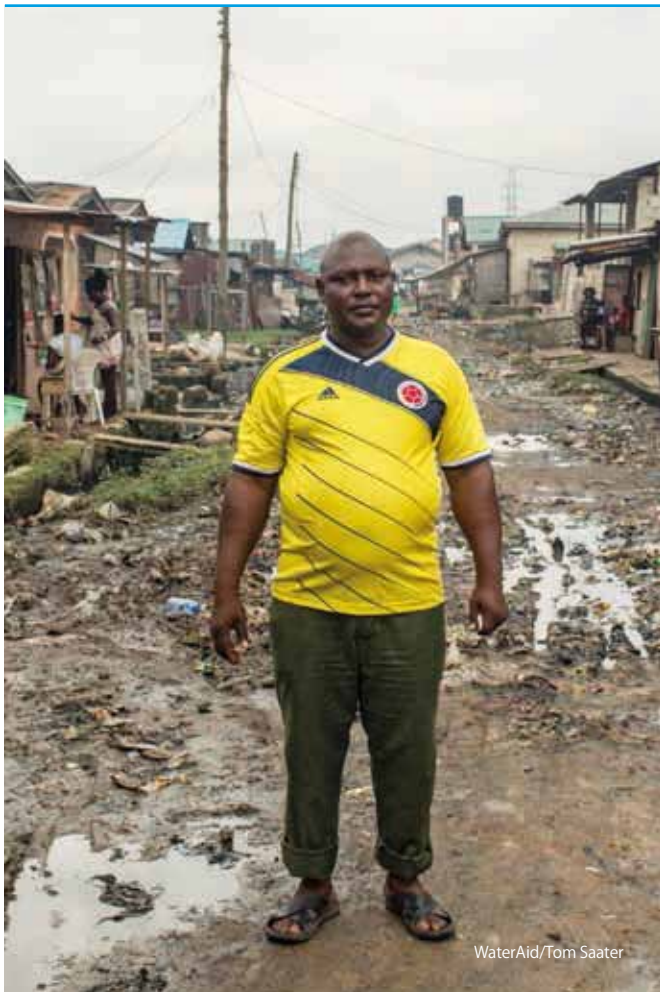
33%

5歳以下の低身長の子供の割合



ナイジェリアはアフリカ最大の人口を誇り、そのうちの半分近い48%が都市部に住んでいます<sup>38</sup>。ナイジェリア政府にとって、衛生は優先課題ではありません。首都のアブジャやラゴスのいくつかの地域を除いて、コミュニティ全体を網羅した下水システムはありません。政府は、衛生設備は本来、各家庭が責任をもって改善されるべきものである主張しますが、改善をもたらすほど金銭的に余裕のある家庭などありません。

## ナイジェリアの事例



WaterAid/Tom Saater

35歳のフランシス・アラガンさんは3人の子供のお父さんで、漁師として働いています。生まれた時からずっと、ラゴス近郊のバリガにある海辺のスラムコミュニティ、アゴ・エグンで暮らしています。

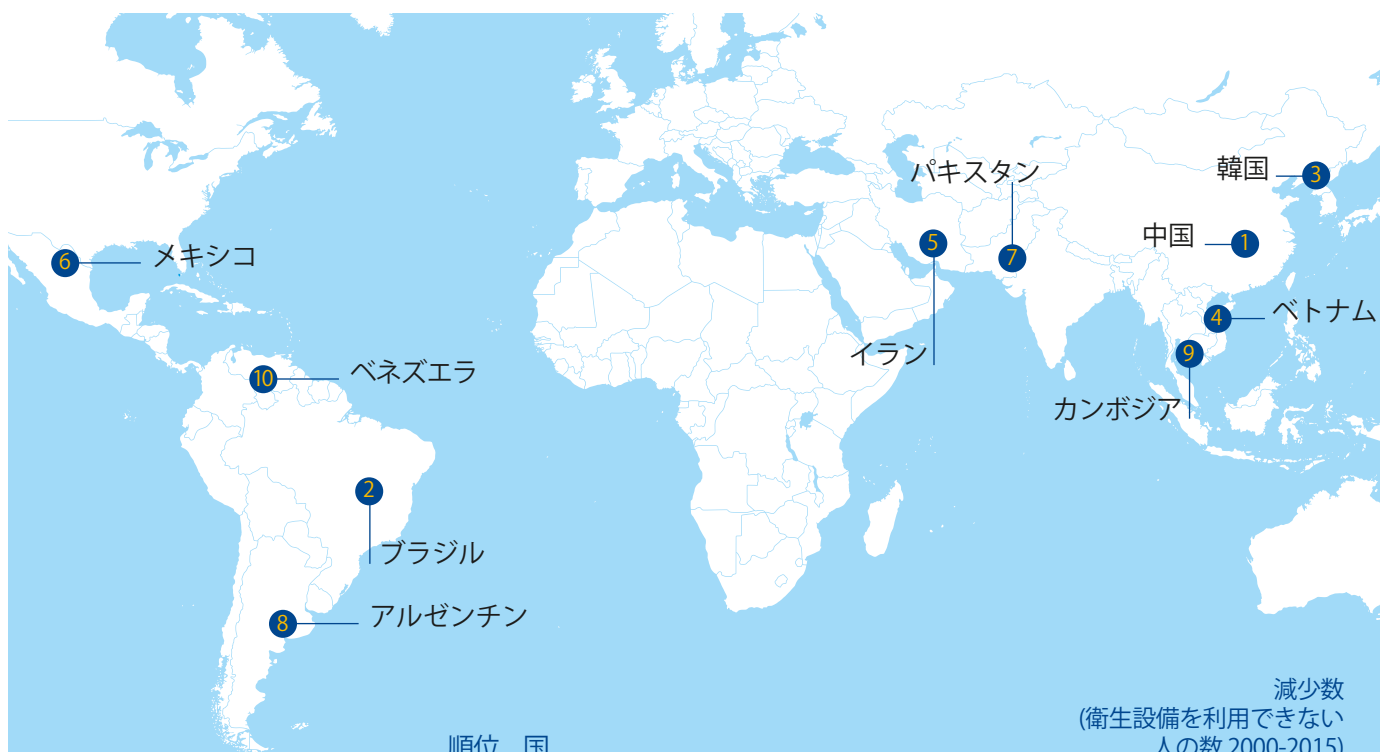
「私たちのコミュニティが直面している大きな問題は、飲料水やトイレ、電気、さらには子供が通う学校もないことです。雨期の間、満潮時にこの一帯は水浸しになります。たびたび胸のあたりまで水が達し、私たちの持ち物はどれも使えなくなります。今は浸水を膝あたりでおさめるために砂袋を使っています。フランシスさんのコミュニティにとって、浸

フランシスさんのコミュニティにとって、浸水を防ぐことは、スラム内の病気を減らすことにつながります。なぜなら、コミュニティ周辺の水は、囲いのないトイレそのものだからです。近隣の人々は、近くの橋の下からボートを出して、海中にそのまま排泄する以外に選択肢がないのです。

## 5. 安全でプライベートの保たれたトイレを利用できるようになった都市居住者の数が多い国——トップ10<sup>39</sup>

すべての場所のすべての人にトイレを届けようとしたときに、都市は人口増加という特殊な問題に直面します。近隣の1世帯に衛生設備を届けるあいだに、衛生設備のない世帯が新たに誕生するといったことがしばしば起こります。このカテゴリーに含まれるのは、都市に人が流入するペースよりも速くトイレを設置することに成功した国です。これは、これらの国が新しい住民にトイレを届けるだけでなく、トイレを利

用できない人の数も確実に減らすことができたということです。たとえば急成長を遂げる中国では、2000年以降に増加した人口を900万人も上回る3億2,900万人に都市型の衛生システムを提供することができました。それでも、残りの1億400万の都市居住者は、いまだに原始的で安全とは言えない共同トイレを利用しています。



順位	国	減少数 (衛生設備を利用できない 人の数,2000-2015)
1	中国	9,137,000
2	ブラジル	3,382,000
3	韓国	2,885,000
4	ベトナム	2,821,000
5	イラン	2,499,000
6	メキシコ	1,504,000
7	パキスタン	1,226,000
8	アルゼンチン	985,000
9	カンボジア	902,000
10	ベネズエラ	869,000



## パキスタン

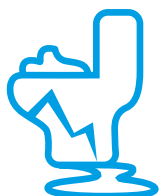
人間開発指数188か国のうち第 **147** 位<sup>41</sup>

パキスタンは2000年以降、2,650万人に衛生設備を届け、トイレを利用できない住民は120万人減りました。<sup>40</sup>

12,321,000

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

16.9%



48,400

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



22,000+

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



45%

5歳以下の低身長の子供の割合



パキスタンの町や都市は急速に拡大し続けており、2050年までに人口の半数以上が都市居住者になると推定されています。現在、9都市の人口が100万人を超えています<sup>42</sup>。パキスタンは目覚ましい発展を遂げる一方で、いまだに厳しい不平等が存在し、最も貧しい人たちは取り残されたままです。都市部では農村から流入した新たな住民に十分な雇用や住宅、サービスを提供できていないことがスラムの拡大率を押し上げ、異なる民族や社会集団間の対立を煽る事態を招いています。

トイレを利用できない都市居住者の割合は1990年以降半減しましたが、今なお続く危機的状況が招いた下痢によって、毎年22,000人もの子供が命を落としています<sup>43</sup>。

## パキスタンの事例

アジア最大のスラムの1つであるオランギタウンでは、基本的なサービスを受けられない状態が長年続いていましたが、1980年に地元住民が「オランギ・パイロット・プロジェクト」と呼ばれる組織を立ちあげ、住民が道路を改良したり、家や路地を市の公益事業につなげたり、72,000世帯にトイレを設置したりする活動に対して支援を行ってきました<sup>44</sup>。この組織は4kmにおよぶ下水管を設置し、ムハマド・アブドゥル・カディルさんはその工事の75%に携わったと言います。

「今では、汚水は下水の本管に直接流れこみます。おかげで、多くの人が恩恵を受けて、暮らしやすくなりました。」

かつてコミュニティの汚点でもあった覆いのない淀んだ下水溝はなくなりました。大半がごくわずかな収入で暮らし、貧困から抜け出そうともがくオランギの住民は、ムハマドのような人たちの貴重な働きを高く評価しています。



WaterAid/ Sibtain Haider

## 6. 安全でプライベートの保たれたトイレを利用できるようになった都市居住者が圧倒的に少ない国<sup>45</sup>

ワースト1のナイジェリアは、衛生設備を利用できない都市居住者が群を抜いて多く、まさしく「一歩進んで二歩下がる」状態だと言えます。ナイジェリアでは2000年以降、都市居住者1人に衛生設備を届けるたびに、利用できない人が2人増える状態が続いています。よい衛生設備がもたらす恩恵について理解していない人が多く、政府もスラムを放置してい

るために、劣悪な状況がさらに進行しています。

バングラデシュは4位に位置しており、似たような状況に置かれています。2000年から2015年の間に、1500万人以上にトイレが届けられた一方、800万人近くが、トイレのない人口に新たに加わりました<sup>46</sup>。



## バングラデシュ

人間開発指数188か国のうち第 **142** 位<sup>48</sup>

過去40年で、ダッカの人口は50万人から1700万人へと膨れあがりました。毎年約50万人がダッカ市内に移住している計算になります。<sup>47</sup>

**23,272,000**

改善された衛生設備を利用できない都市居住者の数と割合

**42.3%**



**0**

野外排泄を習慣とする都市居住者の数



**4,000+**

予防可能な下痢による子供の年間死亡数



**36%**

5歳以下の低身長の子供の割合



バングラデシュの首都ダッカでは、700万人に対して公衆トイレが47しかありません<sup>49</sup>。それにもかかわらず、野外排泄をなくすための大変な努力を続けた結果、都市部ではほぼゼロになったと報告されています。

このことは、政治的意思と大々的なキャンペーンがあれば状況を改善できることを証明しています。しかし、都市の発展を妨げずに衛生や健康状態を改善するには、さらなる努力が必要です。

## バングラデシュの事例

アルハズ・ジャラウディンさんは、ダッカにあるガブトリ・バスターミナル維持管理チームの責任者です。2014年、H&Mコンシャス財団のプロジェクト「サンライズ」の一環で新設した30か所のトイレのひとつとして、ウォーターエイドはバスターミナル内にトイレを設置する支

援を行いました。

アルハズさんは言います。「このトイレは国全体のお手本です。今までこんなトイレは見たことがありませんでした。過去18か月の利用者数は30万人以上にのぼり、もう少しトイレの個室を増やしたいと考えています。」



WaterAid/GMB Akash



39歳のサラ・クアイエさんは目が見えず、2014年にウォーターエイドの現地パートナーがリベリアのペインズビルに設置した障害者にやさしいトイレを利用しています。

「他人にからかわれて恥ずかしい思いをすることがないので、このトイレを気に入っています。以前は一般の公衆トイレに行っていましたが、汚れたまま放置されていたので私には使いづらいものでした。もう感染症にかかることもないので、治療費を払わなくてよいのが嬉しいです。その分をほかのことに使えるよう、貯金しています。」

WaterAid/Ahmed Jallanzo

# おわりに

人類の大半は、町や都市で未来を切り開くでしょう。しかし世界中の都市が凄まじいスピードで拡大する中で、都市が抱える格差も拡大の一途をたどっています。

こうした状況では、隣人の身の上で起きた問題はすぐに自分の問題にもなります。たとえば、ある地域で衛生設備の不備による病気が広まれば、あっという間に近隣の豊かな暮らしをしている子供の命を奪いかねません。か所で起こった流行が、一気に都市全体、全国、そして世界中へと広がるのです。

よい衛生設備が公衆衛生の基本であり、すべての人がいつでも利用できる必要があることは世界のリーダーたちも認識しています。

「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標6—2030年までにすべての人がすべての場所で基本的なトイレを利用できる—を達成するためには、世界中のすべての町や都市が、すべての人々にトイレを届けることを最優先課題とし、より健康的で持続可能な未来に向かって道を切り開いていく必要があります。

## ウォーターエイドの提案

### 1. より多くの資金を充てる

政府は、ドナー機関の支援を受けながら、資金を大幅に増やし、衛生と水サービスに取り組む強い機関を立ち上げることで、適切な衛生設備や衛生教育、清潔な水を都市居住者へ届けなければなりません。



### 2. 資金を有効活用する

増額した資金は、最も貧しく立場の弱い人々が最大の恩恵を受けられるよう、透明性を確保し効率的に活用されるべきです。都市レベルで決定権を持つ人は、その対象範囲を広げたり、収益を維持しつつ長期的に質の高い衛生サービスを提供するために必要な経費（例：給料、トレーニング、維持管理）に割り当てたりするための十分な資金と人的リソースを必要とします。

### 3. すべての人々に届ける

国家戦略の文脈における政府は、スラムや非正規の居住地の住民を含むすべての人々が平等に衛生設備を利用できるよう、都市全体を対象とした公衆衛生の取りくみを実践することが求められます。また都市部の貧困層の大半は、便槽を空にし、取り出した排せつ物を運搬し処理する必要があるピット式トイレに依存しているため、トイレや下水道の枠を越えて幅広くカバーする「シティワイド」である公共事業が求められます。

### 4. 当事者全員が団結する

地方自治体の衛生計画担当者の能力が強化され、先頭に立ってすべての公共事業提供者と資金提供者の取り組みを統括する必要があります。地域レベルの取り組みにおいても、統率の取れたひとつの組織として、ドナーやNGO、民間セクター、非公式の公共事業提供者、そして市民が協働していくことが求められます。

### 5. 清掃作業員へ敬意を払う

政府も市民も清掃作業員を讃えるべきです。清掃作業員の働きがなければ、衛生的な環境やコミュニティや都市の健康を保つことは不可能です。清掃作業員は、適切な労働環境や安定的雇用、安全、そして正当な給料を正しく受けとるべきです。



## 付録: 国別の安全でプライベートの保たれた トイレを利用できない割合<sup>50</sup>

国名	利用できない 人口の割合	国名	利用できない 人口の割合
Afghanistan	54.9	Cape Verde	18.4
Albania	4.5	Cayman Islands	4.4
Algeria	10.2	Central African Republic	56.4
American Samoa	37.5	Chad	68.6
Andorra	0	Channel Islands	n/a
Angola	11.4	Chile	0
Anguilla	2.1	China	13.4
Antigua and Barbuda	n/a	China, Hong Kong SAR	n/a
Argentina	3.8	China, Macao SAR	n/a
Armenia	3.8	Colombia	14.8
Aruba	2.3	Comoros	51.7
Australia	0	Congo	80.0
Austria	0	Cook Islands	2.4
Azerbaijan	8.4	Costa Rica	4.8
Bahamas	8.0	Côte d'Ivoire	67.2
Bahrain	0.8	Croatia	2.2
Bangladesh	42.3	Cuba	5.6
Barbados	3.8	Cyprus	0
Belarus	5.9	Czech Republic	0.9
Belgium	0.5	Democratic People's Republic of Korea	12.1
Belize	6.5	Democratic Republic of the Congo	71.5
Benin	64.4	Denmark	0.4
Bermuda	n/a	Djibouti	40.2
Bhutan	22.1	Dominica	n/a
Bolivia (Plurinational State of)	39.2	Dominican Republic	13.8
Bosnia and Herzegovina	1.1	Ecuador	13.0
Botswana	21.5	Egypt	3.2
Brazil	12.0	El Salvador	17.6
British Virgin Islands	2.5	Equatorial Guinea	20.1
Brunei Darussalam	n/a	Eritrea	55.5
Bulgaria	13.2	Estonia	2.5
Burkina Faso	49.6	Ethiopia	72.8
Burundi	56.2	Faeroe Islands	n/a
Cambodia	11.9	Falkland Islands (Malvinas)	n/a
Cameroon	38.2	Fiji	6.6
Canada	0	Finland	0.6

国名	利用できない人口の割合	国名	利用できない人口の割合
France	1.4	Liberia	72.0
French Guiana	n/a	Libyan Arab Jamahiriya	3.2
French Polynesia	1.5	Liechtenstein	n/a
Gabon	56.6	Lithuania	2.8
Gambia	8.5	Luxembourg	2.5
Georgia	4.8	Madagascar	82.0
Germany	0.7	Malawi	52.7
Ghana	79.8	Malaysia	3.9
Greece	0.8	Maldives	2.5
Greenland	0	Mali	62.5
Grenada	2.5	Malta	0
Guadeloupe	3.0	Marshall Islands	15.5
Guam	10.2	Martinique	n/a
Guatemala	22.5	Mauritania	42.5
Guinea	65.9	Mauritius	6.1
Guinea-Bissau	66.5	Mayotte	n/a
Guyana	12.1	Mexico	12.0
Haiti	66.4	Micronesia (Fed. States of)	14.9
Honduras	13.3	Monaco	0
Hungary	2.2	Mongolia	33.6
Iceland	1.3	Montenegro	2.0
India	37.4	Montserrat	n/a
Indonesia	27.7	Morocco	15.9
Iran (Islamic Republic of)	7.2	Mozambique	57.6
Iraq	13.6	Myanmar	15.7
Ireland	10.9	Namibia	45.5
Isle of Man	n/a	Nauru	34.4
Israel	0	Nepal	44.0
Italy	0.5	Netherlands	2.5
Jamaica	20.1	Netherlands Antilles	n/a
Japan	0	New Caledonia	0
Jordan	1.4	New Zealand	n/a
Kazakhstan	3.0	Nicaragua	23.5
Kenya	68.8	Niger	62.1
Kiribati	48.8	Nigeria	67.2
Kuwait	0	Niue	0
Kyrgyzstan	10.9	Northern Mariana Islands	20.3
Lao People's Democratic Republic	5.5	Norway	2.0
Latvia	9.2	Oman	2.7
Lebanon	19.3	Pakistan	16.9
Lesotho	62.7	Palau	0

国名	利用できない 人口の割合	国名	利用できない 人口の割合
Palestine	7.0	Sudan	n/a
Panama	16.5	Suriname	11.6
Papua New Guinea	43.6	Swaziland	36.9
Paraguay	4.5	Sweden	0.7
Peru	17.5	Switzerland	0.1
Philippines	22.1	Syrian Arab Republic	3.8
Poland	2.5	Tajikistan	6.2
Portugal	0.4	TFYR Macedonia	2.8
Puerto Rico	0.7	Thailand	10.1
Qatar	2.0	Timor-Leste	31.0
Republic of Korea	0	Togo	75.3
Republic of Moldova	12.2	Tokelau	n/a
Réunion	1.6	Tonga	2.4
Romania	7.8	Trinidad and Tobago	8.5
Russian Federation	23.0	Tunisia	2.6
Rwanda	41.5	Turkey	1.7
Saint Kitts and Nevis	n/a	Turkmenistan	n/a
Saint Lucia	15.3	Turks and Caicos Islands	n/a
Saint Vincent and the Grenadines	n/a	Tuvalu	13.7
Samoa	6.7	Uganda	71.5
San Marino	n/a	Ukraine	2.6
São Tomé and Príncipe	59.2	United Arab Emirates	2.0
Saudi Arabia	0	United Kingdom	0.9
Senegal	34.6	United Republic of Tanzania	68.7
Serbia	1.8	United States of America	0.0
Seychelles	1.6	United States Virgin Islands	3.6
Sierra Leone	77.2	Uruguay	3.4
Singapore	0	Uzbekistan	0
Slovakia	0.6	Vanuatu	34.9
Slovenia	0.9	Venezuela (Bolivarian Republic of)	2.5
Solomon Islands	18.6	Vietnam	5.6
Somalia	n/a	Western Sahara	n/a
South Africa	30.4	Yemen	n/a
South Sudan	83.6	Zambia	44.4
Spain	0.2	Zimbabwe	50.7
Sri Lanka	11.9		



## 参考文献

- 1 World Bank (2015) figure: <http://data.worldbank.org/indicator/SP.URB.TOTL.IN.ZS>
- 2 United Nations (2014), Department of Economic and Social Affairs, Population Division, World Urbanization Prospects: The 2014 Revision, Highlights <https://esa.un.org/unpd/wup/Publications/Files/WUP2014-Highlights.pdf>
- 3 United Nations (2014): <http://www.un.org/en/development/desa/news/population/world-urbanization-prospects-2014.html>
- 4 UN-Habitat (2014): <http://unhabitat.org/wp-content/uploads/2014/07/WHD-2014-Background-Paper.pdf>
- 5 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 6 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 7 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2012): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 8 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org/fileadmin/user\\_upload/resources/JMP-WASH-Post-2015-Brochure.pdf](http://www.wssinfo.org/fileadmin/user_upload/resources/JMP-WASH-Post-2015-Brochure.pdf)
- 9 WASHwatch: [www.washwatch.org](http://www.washwatch.org)
- 10 World Health Organization (2008) Safer water, better health: costs, benefits and sustainability of interventions to protect and promote health [http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/43840/1/9789241596435\\_eng.pdf](http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/43840/1/9789241596435_eng.pdf)
- 11 Based on percentage estimate from UN Development Programme (2006) Human development report: [www.hdr.undp.org/en/media/HDR06-complete.pdf](http://www.hdr.undp.org/en/media/HDR06-complete.pdf)
- 12 International Monetary Fund (2009) World Economic Outlook <http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2009/01/pdf/text.pdf>
- 13 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 14 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 15 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 16 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 17 WaterAid (2016), A tale of clean cities: Insights for planning urban sanitation from Ghana, India and the Philippines (Synthesis report)
- 18 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/ghana/summary/statistics/>
- 19 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 20 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 21 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 22 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/india/summary/statistics/>
- 23 World Bank (2016): <http://www.worldbank.org/en/country/india/overview>
- 24 Government of India Ministry of Urban Development, Swachh Bharat Urban: <http://www.swachhbharaturban.in/sbm/home/#/SBM>
- 25 World Bank (2016): <http://www.worldbank.org/en/country/india/overview>
- 26 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 27 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 28 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 29 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 30 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/liberia/summary/statistics/>
- 31 United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs
- 32 World Health Organization: <http://www.who.int/csr/disease/ebola/ebola-6-months/surprises/en/>
- 33 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 34 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 35 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 36 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 37 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/nigeria/summary/statistics/>
- 38 World Bank (2015)
- 39 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 40 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 41 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/pakistan/summary/statistics/>
- 42 United Nations (2014), Department of Economic and Social Affairs, Population Division, World Urbanization Prospects: The 2014 Revision, Highlights <https://esa.un.org/unpd/wup/Publications/Files/WUP2014-Highlights.pdf>
- 43 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/pakistan/summary/statistics/>
- 44 Massachusetts Institute of Technology: <http://web.mit.edu/urbanupgrading/upgrading/case-examples/ce-PK-ora.html>
- 45 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 46 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)
- 47 Index Mundi (2015): [http://www.indexmundi.com/bangladesh/demographics\\_profile.html](http://www.indexmundi.com/bangladesh/demographics_profile.html)
- 48 WASHwatch: <http://www.washwatch.org/en/countries/bangladesh/summary/statistics/>
- 49 WaterAid Bangladesh and Centre for Urban Studies (2011), An assessment of public toilets in Dhaka City
- 50 World Health Organization/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation (2015): [www.wssinfo.org](http://www.wssinfo.org)

オールド・ファダマ・スラムを  
歩いていく水売り人のナナ・ア  
イーシャさん（ガーナ、アクラ）

WaterAid/Geoff Bartlett





Written by Tom Burgess with support from Jo Lehmann, Carolynne Wheeler, Fiona Callister, Laura Summerton, Tim Brewer, Andrés Hueso, Dan Jones, WaterAid India, WaterAid Nigeria, WaterAid Liberia-Sierra Leone, WaterAid Ghana, WaterAid Pakistan, WaterAid Bangladesh.

November 2016

[www.wateraid.org](http://www.wateraid.org)

#StateOfToilets

For more information or to arrange interviews please contact WaterAid's global media team:

In London: Fiona Callister on [FionaCallister@wateraid.org](mailto:FionaCallister@wateraid.org) or +44 (0)20 7793 5022, Carolynne Wheeler on [CarolynneWheeler@wateraid.org](mailto:CarolynneWheeler@wateraid.org) or +44 (0)20 7793 4485, or Jo Lehmann on [JoLehmann@wateraid.org](mailto:JoLehmann@wateraid.org) or +44 (0)20 7793 4909

In Delhi: Anil Cherukupalli on [AnilCherukupalli@wateraid.org](mailto:AnilCherukupalli@wateraid.org), or Pragya Gupta on [PragyaGupta@wateraid.org](mailto:PragyaGupta@wateraid.org)

In Melbourne: Kirrily Johns on [kirrily.johns@wateraid.org.au](mailto:kirrily.johns@wateraid.org.au) or +61 3 9001 8246

In New York: Alanna Imbach on [AlannaImbach@wateraid.org](mailto:AlannaImbach@wateraid.org) or +1 (212) 683-0430 ext 224 or +1 (646) 267 8006

In Ottawa: Christine LaRocque on [CLaRocque@wateraidcanada.com](mailto:CLaRocque@wateraidcanada.com) or +1 (613) 230-5182 ext 226

In Stockholm: Magdalena Olsson on [Magdalena.Olsson@wateraid.se](mailto:Magdalena.Olsson@wateraid.se) or +46 (0)8 677 30 33 or +46 (0)73 661 93 31, or Petter Gustafsson on [Petter.Gustafsson@wateraid.se](mailto:Petter.Gustafsson@wateraid.se) or +46 (0)8 677 30 21 or +46 (0)72 858 58 51

Or call our after-hours press line on +44 (0)7887 521 552  
or email [pressoffice@wateraid.org](mailto:pressoffice@wateraid.org)



WaterAid is a registered charity:  
Australia: ABN 99 700 687 141.  
Canada: 119288934 RR0001.  
India: U85100DL2010NPL200169.  
Sweden: Org.nr: 802426-1268, PG: 90 01 62-9, BG: 900-1629.  
UK: 288701 (England and Wales) and SC039479 (Scotland).  
US: WaterAid America is a 501(c) (3) non-profit organization.

---

Cover image: A girl skips over a stream full of sewage in a slum in the Ajeromi-Ifelodun area of Lagos, Nigeria.

WaterAid/Tom Saater